

01 トップに聞く 「次なる成長機会へ向け、体质強化に取り組みます」



事業環境が大きく変化する中、最終年度を迎えた中期経営計画

『FORWARD(フォワード)08』への取り組みと今後の進むべき方向性について、
代表執行役社長の太田 義勝がご説明します。

株主の皆さんには、日頃から格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当第2四半期累計期間(2008年4月1日から9月30日まで)は、世界的な景気減速や円高の影響を受けた結果、連結売上高は5,329億円(前年同期比1.5%増)、営業利益486億円(同14.7%減)、経常利益478億円(同12.4%減)、四半期純利益292億円(同22.2%減)と、增收減益になりました。こうした実績に加え、先行きの需要や価格動向、為替変動など事業環境の不透明感が想定以上に増している現状を踏まえ、当下半期の販売予想を見直すとともに、通期の連結業績予想を修正することになりました。

なお、株主の皆さんへの剰余金の配当としましては、お知らせしております通り、当第2四半期末配当金は1株当たり10円を実施いたします。また、当第2四半期末と期末配当を合わせた年間配当金につきましては20円の実施を予定しております。

コニカミノルタホールディングス株式会社
代表執行役社長
太田 義勝

Q1 この6ヵ月間の業績に対する評価をお願いします。

「想定以上の市況変化で、情報機器事業が伸び悩みました」

当第2四半期累計期間は、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融不安や、原材料ならびに資源価格の高騰が世界経済に大きな影を落としました。そのような状況の中、当社グループの業績は売上高については前年同期を上回ったものの、営業利益、経常利益、四半期純利益はいずれも減益という厳しい結果になりました。主な減益の要因としては、当社グループの中核事業である情報機器事業における収益の減少が挙げられます。

情報機器事業では「ジャンルトップ戦略（成長が見込まれる事業領域や市場に経営資源を集中して事業拡大を図り、その中でトップポジションの地位を確立していく）」の基本方針に沿い、オフィス分野では国内外において需要が続くカラーMFP、また商業印刷分野では成長が見込まれるプロダクションプリント用高速MFPの販売に注力しました。その結果、カラーMFPの販売台数は前年同期比で約20%増と堅調に推移し、プロダクションプリント分野の売上高も前年同期を上回る実績をあげました。しかしながら、米国で始まった景気減速は、同事業にとって最大市場である欧州においても第2四半期後半には顕在化し、MFPの販売に影響を与えました。このような当初の想定を上回る市況悪化により、MFPの販売を思うように伸ばしき

れない中、競争激化による価格下落の影響も増大し、減益となりました。なお、売上高については米ドルに対する大幅な円高による減収の影響がありましたが、米国において2008年6月に買収したダンカ・オフィス・イメージング社の業績が当第2四半期から連結対象に加わったことで、ほぼ前年同期並みの水準を確保しました。

一方、戦略事業であるオプト事業は、VA-TAC（視野角拡大フィルム）、BD（ブルーレイディスク）用ピックアップレンズ、ガラス製ハードディスク基板の販売が牽引し、第1四半期より増収増益基調を保っていますが、残念ながら情報機器事業およびその他事業での減少分を補完するまでには至りませんでした。

以上のような当第2四半期累計期間の実績、ならびに世界的な金融危機が実体経済にまで影響している現状を踏まえ、主力製品であるMFPを中心に下半期の販売予想を見直すとともに、為替レートの前提を米ドルは当初予想していた100円から95円に、ユーロは155円から120円へと円高に置き直した結果、通期の売上高は当初予想から750億円減少の1兆350億円、営業利益は400億円減少の800億円、当期純利益は280億円減少の420億円と修正することになりました。

第2四半期 連結累計期間年度推移 (億円未満切捨)

売上高（億円）



営業利益（億円）



四半期純利益（億円）



情報機器事業



売上高は前年同期並み。
営業利益は価格下落や研究開発費などの増加により27.7%減益。

[MFP分野]

- カラーMFP:**戦略商品「bizhub(ビズハブ)C200」を海外で投入し商品競争力を強化。
- プロダクションプリント:**高速カラーMFPの新製品「bizhub PRO C6501・C5501」の販売が、欧米市場を中心に順調に推移。

[プリンタ分野]

- 高速カラープリンタやオールインワン型カラープリンタなどの高付加価値製品を投入し、一般オフィス向けにラインアップを拡充。

売上高▶3,437億円 前年同期比▶0.9%減

営業利益▶323億円 前年同期比▶27.7%減

オプト事業

市場の進化に対応した新製品開発と生産能力強化への積極投資が相乗り、売上高は前年同期比31.4%增收、営業利益も45.2%増益。

[ディスプレイ部材分野]

- TACフィルム:**VA-TACフィルムの新製品に対するお客様からの評価が高く、大型液晶テレビ向けの販売数量が大きく増加。生産能力もさらに増強し、好調な需要に対応。



[メモリー分野]

- 光ピックアップレンズ:**圧倒的な市場ポジションを持つBD用ピックアップレンズの販売が大きく伸長。
- ガラス製ハードディスク基板:**新工場の順調な立ち上げに加え、ノートパソコンの需要拡大により販売数量は大幅に増加。

[画像入出力コンポーネント分野]

- カメラ付携帯電話用マイクロカメラモジュールやレンズユニットの販売は堅調に推移。

売上高▶1,094億円 前年同期比▶31.4%増

営業利益▶189億円 前年同期比▶45.2%増

Q2 注力分野での販売状況についてお聞かせください。

「厳しい環境においても戦略商品の優位性には手応えを感じています」

情報機器事業では、従来から取り組みを進めているオフィス向けカラーMFPに加えて、プロダクションプリント分野において従来機種から画像安定性や堅牢性をさらに向上させた「bizhub PRO(ビズハブ プロ)シリーズ」の新製品2機種を2008年8月から販売開始し、現在のマーケットポジションをさらに向上させるべく、欧米市場に向けて精力的に販売活動を展開しています。

オプト事業では、2008年初めから投入したVA-TACフィルムの新製品が、供給先となる液晶偏光板メーカーや液晶パネルメーカー各社から品質の安定性について高く評価され、大型液晶テレビ市場の急速な拡大とともに、販売数量は大きく増加しています。また、2008年6月には第6製造ラインを本格稼働させ、生産能力や稼働率の向上にも取り組んでいます。BD用ピックアップレンズも、当社グループが有する先進の技術力と生産力

で圧倒的な市場ポジションを持ち、販売を大きく伸ばしています。ガラス製ハードディスク基板は、2008年2月に竣工したマレーシア新工場での生産も順調に立ち上がり、ノートパソコンの需要拡大に支えられて販売数量は大幅に増えています。

メディカル&グラフィック事業については、診療所など小規模な医療施設向けに開発したデジタルX線画像読取装置の新製品「REGIUS(レジウス) MODEL 110」と周辺システム「REGIUS Unitea(ユニティア)」が、小型でシンプルな操作環境を提供するという設計思想が医療画像診断の現場から高く評価され、販売も着実に推移しています。

このように、戦略商品についてはそれぞれの分野において成長の手応えを感じています。しかしながら、世界的な景気減速の影響で先行きの不透明感が増している現況では、これまで以上に慎重な対応が必要と認識しています。

Q3 『FORWARD 08』の締めくくりとなる残りの6ヶ月と 2009年度以降の展望をお聞かせください。

「次の成長機会に向けた企業改革の好機と 捉え、グループの体質強化に取り組みます」

下半期も当社グループを取り巻く事業環境は、さらに厳しくなると予想されます。そして、今起こっている世界的な景気停滞は一時的ではなく、長引くことと認識すべきだと考えています。まさに冬の時代ですが、この危機を次の成長機会に向けた企業改革を行う好機と捉え、当社グループの体質強化の取り組みを一層、加速していきます。

中期経営計画『FORWARD 08』は、当社グループの成長に向けて事業収益力や財務基盤など企業体質の強化を目指すのですが、まず、緊急的には経費の削減、新規投資の抑制や繰り延べを進めています。同時に、当社グループが営むそれぞれの事業のありかたについても抜本的な見直しに取り組んでいます。

もちろん、次の成長ベースとなる

「ジャンルトップ戦略」の事業競争力の強化は決して手を緩めません。高いエネルギー効率をもつ有機EL技術を用いた照明事業への参入をはじめ、「環境」をキーワードとして新たな事業分野へも挑戦します。地球環境への貢献と同時に収益面でも期待できる分野への投資は、積極的に行う考えです。

現在、「過去の慣習にとらわれず、大胆な発想で勇気ある挑戦をしよう」との決意を「simply BOLD(シンプリー・ボルド)」という合言葉に凝縮し、全グループ会社を対象に企業風土の改革を進めています。グループ社員一丸となり、次なる成長機会へ向けた体質強化に取り組んでいく覚悟です。

株主の皆さんにおかれましては、末永いご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※「simply BOLD」とは、目の前にある目標や夢に向かって大胆な発想で勇気ある挑戦を続けるというコニカミノルタグループ社員のスローガンです。

メディカル&グラフィック事業

海外向けを中心とするフィルム製品の販売減少により、売上高は前年同期比17.8%減収、営業利益も28.7%減益。

[医療・ヘルスケア分野]

- コンパクトなデジタルX線画像読取装置の新製品とその周辺システムが医療画像診断の現場から高く評価され、国内外の販売は堅調に推移。



[印刷分野]

- 当社独自の技術を搭載したオンデマンド印刷システムの販売に注力するが、国内外とも設備投資意欲の減退で伸び悩み。

売上高 ▶ 662億円 前年同期比 ▶ 17.8%減

営業利益 ▶ 28億円 前年同期比 ▶ 28.7%減

計測機器事業

分光測色計および三次元デジタイザの新製品の販売に注力。

売上高 ▶ 49億円 営業利益 ▶ 5億円

その他事業

産業用インクジェット部材など
先述の事業セグメントに含まれない事業

売上高 ▶ 85億円 営業利益 ▶ 16億円

(注) 営業利益には消去又は全社費用として76億円が含まれています。